

## 「第4次兵庫県環境基本計画」の点検・評価について 環境審議会でもいただいたご意見

### 1 計画全般について

- ・中山間部では人口が減少し、コメの値段が安くなり、シカやイノシシの被害もあるため、水田を作らなくなってきている。水田が荒れると保水力など環境にも問題が出てくるので、放棄田対策についても、取り上げてもらいたい。(H26, H27)
- ・「低炭素」「自然共生」といった区分毎になっており、「暮らし」「しごと」「まち」「さと」というフィールド毎のトータルな絵が見えないので、整理の仕方を逆に、構成を変えると、「暮らし」や「しごと」の中の全体像が見えてくるのでは。(H28)
- ・マイクロプラスチックの問題などは、生物多様性と循環の両方に関わっているが、そういった分野横断的なものについては、次期環境基本計画の方で充実をしていただければ。(H29)

### 2 評価方法・指標について

- ・参加者数や登録数などの数字よりも、活動数や何をやったかの中身が重要で、それがわかる指標に工夫する必要があるのではないかと。(H26, H27, H28)
- ・「◎」「○」「△」は、はっきりしない基準なので、もう少し厳密に評価できないか。評価が甘いのではないかと。(H28)
- ・指標は最終年度の数値目標を設定した上で、年度毎の目標値も入れて、順調に進捗しているのかどうかきちっと分かるような評価をしないといけない。(H28, H29)
- ・個々の課題に対して関連する分野が多いため、それらを整理し、分野毎にそれぞれの目標を達成していくためには、横串が必要である。(H28)
- ・1つの基準が他の基準と矛盾しないのかどうか、関連付けを上手くしないと、最終的に個々は達成したけれど、トータルで良かったのかどうかという全体としての評価が、分かりづらくなっている。(H28)
- ・県がやる仕事、国がやる仕事を整理する必要がある、国がやる仕事に対して、できていないと大騒ぎしてもどうにもならない。(H28)

### 3 低炭素について

- ・温室効果ガス排出量は、電力排出係数が変動するため、努力の度合いが分かりにくい。電力排出係数が増えたから、という理由は、言い訳になってしまう。(H26, H28)
- ・木質系バイオマスの循環は大切だと考えているが、スギ・ヒノキの人工林は放置されて下草が生えない状況になっている。間伐して光が入るようになれば、林がもっと良くなって、里に下りるシカやイノシシが減るのではないかと。うまく循環できるような施策が必要である。(H26)
- ・家庭部門の削減を考えたとき、車自体の省エネ効果は上がっており、淡路ではパークアンドライドが行われているが、北部など地域によっては、1人1台の自家用車を持っている地域もある。地域性に即したまちづくりが必要である。(H26)
- ・適応策について、具体的な対応策というものを、もっと踏み込んでほしい。(H27)
- ・(冷夏や猛暑など) その年度の気象条件に大きな影響を受けると考えられる真夏日・熱帯夜の

日数を、評価対象としてあげること自体、考え直さないといけないのでは。(H28)

- ・神戸市では、CO<sub>2</sub>排出量とは別に、エネルギー消費量を設定しており、その点は原発稼働分を見込むかどうかの是非も含めての議論になると思うが、慎重かつ丁寧にご議論いただきたい。(H29)

#### 4 自然共生について

- ・神戸市北区では、山の枯れ木が広がってきており、山の荒廃が進んでいるのではないかと感じる。(H26)
- ・深刻な農業被害を受けている集落割合では、被害が深刻で農業をやめてしまっている場合、母数に入っていないため、農地面積の割合に被害の深刻度合いを掛けるなどして、被害が深刻であるかどうかということが分かる指標にした方が良いのではないかと。また、イノシシやシカ肉の利活用についても入れていった方が良い。(H27)
- ・ナラ枯れ被害が南下しており、当分続くことが予想される中で、森づくりとの兼ね合いなど、色々なことに影響が出てくると思うが、現時点では触れられていない。(H27)
- ・県、市町、県立公園、各事業所等がこれだけ生物多様性戦略を作っているという兵庫県の強みについても、次から議論、検討してほしい。(H27)
- ・ノリの生産だけが海ではなく、漁業者にとっては網で捕るという生産もあるので、ノリの生産を前面に出して「○」という評価はおかしいのではないかと。(H27, H28)
- ・藻場と干潟を、ストック地域（貯蔵機能）として捉え、魚と栄養塩との間を取り持つ自然海浜をどう復活させるのかという議論を是非やらないといけない。(H27)
- ・栄養塩管理運転や海底耕耘、かいぼりを進めた結果、ノリ生産量が向上し、海域の水質は改善されずに横ばいである、ということだが、見方を変えると、水質は悪化していないとも考えられるので、今後、もう少し下水処理の管理運転を進めて、海の有機物環境が悪くならず、海の生産力の低下が回復するかどうか、見てみてもよいのではないかと。(H29)

#### 5 循環について

- ・極めて物質的な側面として、(廃棄物として)出てからどう処理するかという末端の議論に終始しており、循環型社会の上流部のデザインが弱いので、その点について議論いただきたい。(H26, H28)
- ・最近、廃棄物として出す前に、事業所内または家庭内で再生・再利用する、ということが増えており、工場で再生できないようなものが廃棄物として出てきている。事前に再生が進んでいけば、その分、再生できないものが廃棄物として出てくるわけで、そのことを評価せずに、再生利用率が横ばいという議論をするのは、ナンセンスという気がする。(H27)
- ・家庭系廃棄物と事業系廃棄物に分けて整理しなければ、排出源対策はできない。県として新たな方向に向かっての発信ができる絵が欲しい。(H27, H28, H29)
- ・環境基本計画の目標は最終処分量で、廃棄物処理よりも幅広い資源循環という観点から見ると、一世代前の目標設定となっており、もう少し丁寧に書かないといけない。(H29)
- ・適性処理困難物の中で、太陽光パネルは10年か20年経つと必ず廃棄物になるが、どこにどのようなものが含まれたパネルが設置されているかということを、県レベルで捕捉する手段を、考えないといけない。(H29)

## 6 安全・快適について

- 災害に強い森づくりは面積で評価されているが、木が繁りすぎたことに起因する新たな災害が懸念されているなか、平地部での河川氾濫等を防止する上での森林の役割と、急斜面地の中に森が出来ていく場合など、多少様相が違う部分があって、面積だけだと勘違いされる可能性がある。(H27)
- 森は、災害対策だけではなく、遊びの場であったり、学習の場であったり、あるいは生物多様性の場であったりするので、どのような森をつくるのかという議論をすると面白い。(H27)
- 六甲山は5割以上が民有林であり、高齢化で過疎化が進む中で、人工林や植えっぱなしなど、手が入っていない民有林をどうするかを議論する必要がある。(H27)
- 森の議論の中で、森の幼稚園や子供にふさわしい環境といった幼児教育の方向からも議論を深めてほしい。(H27)

## 7 地域力について

- 森や海は、総合力というか、すべての項目に関わってくる要素がある。地域力を高めていくということが解決策の一つとなったときに、地域の中の自立循環型の構造がどれだけ出来たのか、関係者の中で意識がどれだけ成熟したのかなど、地域力の中に、総合的な視点で計画全体をトータル評価できるような考え方があっても良い。(H27)
- 環境体験事業と自然学校の質が向上しているかどうか、指導補助員の養成をどうしていくのか、現場でどれだけ自然体験が本当にできているのか、そういったことの内実までを入れて評価しないとイケない。(H28)
- 県民局などの大きなブロック毎に、それぞれの地域力がどういう風に育っていったのか、見えるようにできれば。(H28)
- シニア世代という一定の時間や経験、考え方を持っている人たちを活用することも、今後考えていただければ。(H29)